

# 「日本3.0」

Vol.34

## 新しい時代には、 新しいライフスタイルを

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

日本ほど長く豊饒な文化と自然にあふれた国はなかなかありません。文化とはつまるところ衣食住です。しかし戦後の日本は、豊かさともアメリカ崇拜に突っ走ってしまい、足の豊かさを失ってしまいました。とくに住、ライフスタイルはボロボロ。その典型が、空間や景観です。まず景観がひどい。どこの駅に行っても、同じようなチェーン店が並ぶ街並みは、日本ではすっかりおなじみになりました。経済原理のためなら、景観おかまいなしで、目先の個

別の利益を追い求めた末の体たらくです。これでは、ふるさとに誇りを持ってませんし、外国人観光客も呼び込めません。

オフィスもひどい。どのオフィスも似たり寄ったりで、息が詰まりません。いかに効率よく人を収容するかばかりが優先されて、どう気持ちよく働くかが十分に考慮されていません。最近が高層ビルのオフィスが増えていますが、移動するだけでも大変です。

住宅もひどい。しかも、寒い。かつ、部屋が狭く分断されているため、一家団欒の時間も持ちにくい。障子、縁側、木の創りなど、日本の家屋には伝統的に、他者をつなぐ仕組みが組み込まれていました。ところが、それがコンクリートによって分断されてしまい、あたたかい家庭空間が消えてしまいました。地方ならまだ土地に余裕があるため広いところに住めますが、都会は狭小住宅にしか住めません。

狭い家で暮らしながら、すし詰めの満員電車で通勤し、無機質なオフィスで働く。街を歩いてもチェーン店

ばかりの殺風景。これでは、楽しさも幸せも感じられないのは当然です。仕事で新しい発想が生まれてきません。

逆に言うと、これまで蔑ろにされてきただけに、そこを改善することには大きなビジネスチャンスがあります。たとえば、「経済×文化」。この組み合わせで生み出せる事業は無数にあるでしょう。

観光はその最たるものです。人気の京都はもちろん、ほかにも発掘できる日本の宝物は山ほどあります。

たとえば、北海道のニセコ。そこに最初に目を付けたのは、オーストラリアの観光客です。スキー場としては世界で2番目に降雪量が多いと言われ、「奇跡のパウダースノー」と称される雪質の良さを名を馳せています。その後、口コミで評判が広がり、地元の努力によりインフラや施設も整備されて、今では、高級ホテルが居並ぶリゾートへと生まれ変わりました。

外に目を向けるのも大事ですが、まずは隠された日本の価値を発掘することから始めてはどうでしょうか。



### Profile

NewsPicks 取締役 新規事業担当

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。2014年7月からソーシャル経済メディア「NewsPicks」の編集長を務めた。2018年4月より現職。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」「日本3.0」がある